



2025年 2026年
3月8日(土) ~ 9月23日(水)

場所 長崎市遠藤周作文学館

開館時間 午前9時 - 午後5時
(入館受付は午後4時半まで) 料金

休館日 12月29日 ~ 1月3日

一般: 360(260)円
小・中・高校生: 200(100)円
○内は10名以上の団体料金

監修 今井真理 加藤宗哉 宮辺尚

主催 長崎市

  @endo_seitan100

長崎市遠藤周作文学館

検索

企画展 遠藤周作と狐狸庵

おどけと哀しみが交わるところ

自分の悲しさをかくすために悪戯をする、
おどけるその性格は
今日まで私のなかに続いている。

——「クワッ、クワッ先生行状記」

遠藤周作(1923～1996)は、代表作『沈黙』(新潮社、1966年)などの純文学作品を書く一方で、『狐狸庵閑話』(桃源社、1965年)をはじめとする所謂「狐狸庵もの」「ぐうたらシリーズ」と呼ばれる軽妙なタッチのユーモアエッセイで一躍人気作家となりました。また1970年代のネスカフェゴールドブレンドのテレビCMで〈違いがわかる男〉に作家として初めて起用されるなどメディアでの活動においても「狐狸庵先生」のイメージは根強くあります。「日本人のキリスト教受容」という信仰の問題を中心的テーマに小説を書く一方で、「狐狸庵山人」の顔で他人に悪戯を仕掛け、ホラを吹いては周囲を驚きと笑いの境地へと誘うその二極性はいったいいつから生まれたもののなか。

本展では、遠藤周作のもう一つの顔と言われる「狐狸庵山人」の魅力について、その誕生の背景を両親の離婚を経験した幼少期から戦争を体験した青年期、そして遠藤の文学と人生において大きな転換期となった30代後半の肺結核再発による病床体験に求め、新資料を手掛かりに新たな「狐狸庵山人」の世界に迫ります。「狐狸庵山人」が語る人生と生活を豊かに生きるための言葉が、様々な困難を抱え現代を生きる私たちの人生を灯すメッセージとなれば幸いです。

撮影：楠井勲



十返舎一九『東海道中膝栗毛』
岩波文庫、1957年2月

中学生の遠藤は弥次喜多道中に憧れ友人と西宮から京都まで西国街道をのぼろうと試みたが途中で断念した。発行年から中学時代に読んでいたものではなく、後に買い直したと思われる遠藤の蔵書。



桃源社から刊行された
「狐狸庵もの」

関西弁の「こりゃ、あかんわ」から「狐狸庵閑話」と名付け、刊行物として初めて「狐狸庵」の名前を用いた。

『狐狸庵閑話』 1965年7月
『現代の快人物』 1967年5月
『古今百馬鹿』 1967年12月



絵日記「狐狸庵日乗」より
遠藤が書いた「狐狸庵」の自画像

遠藤周作と清水崑

～「狐狸庵閑話 人情編」がっなぎ交流～

場所：遠藤周作文学館 常設展示室

- 第1回 二人をつないだ、長崎、キリスト教
2025年3月8日(土)～9月11日(木)
- 第2回 遠藤周作「狐狸庵閑話 人情編」
2025年9月13日(土)～2026年3月12日(木)
- 第3回 清水崑「長崎の春夏を遊ぶかっ展」
2026年3月14日(土)～9月23日(水)

遠藤周作 生誕100年記念事業 メモリー展

場所 遠藤周作文学館 聴講室
日時 2025年3月8日(土)
～2026年9月23日(水)

文学
講座

遠藤周作と狐狸庵

～展示資料を中心に企画展の魅力を語る～

講師 当館学芸員 場所 遠藤周作文学館
日時 2025年3月15日(土)13～15時 定員 40名
FAXで電話で申し込み(3月13日締切)

※内容に変更がある場合があります。



ACCESS

長崎市遠藤周作文学館

〒851-2327 長崎市東出津町77番地 TEL 0959-37-6011 FAX 0959-25-1443

長崎バス「桜の里ターミナル(大瀬戸・板の浦)」行き乗車。
JR長崎駅から「桜の里ターミナル」で、さいかい交通「大瀬戸・板の浦」行きに乗り換え、
「道の駅(文学館入り口)」下車。約75分